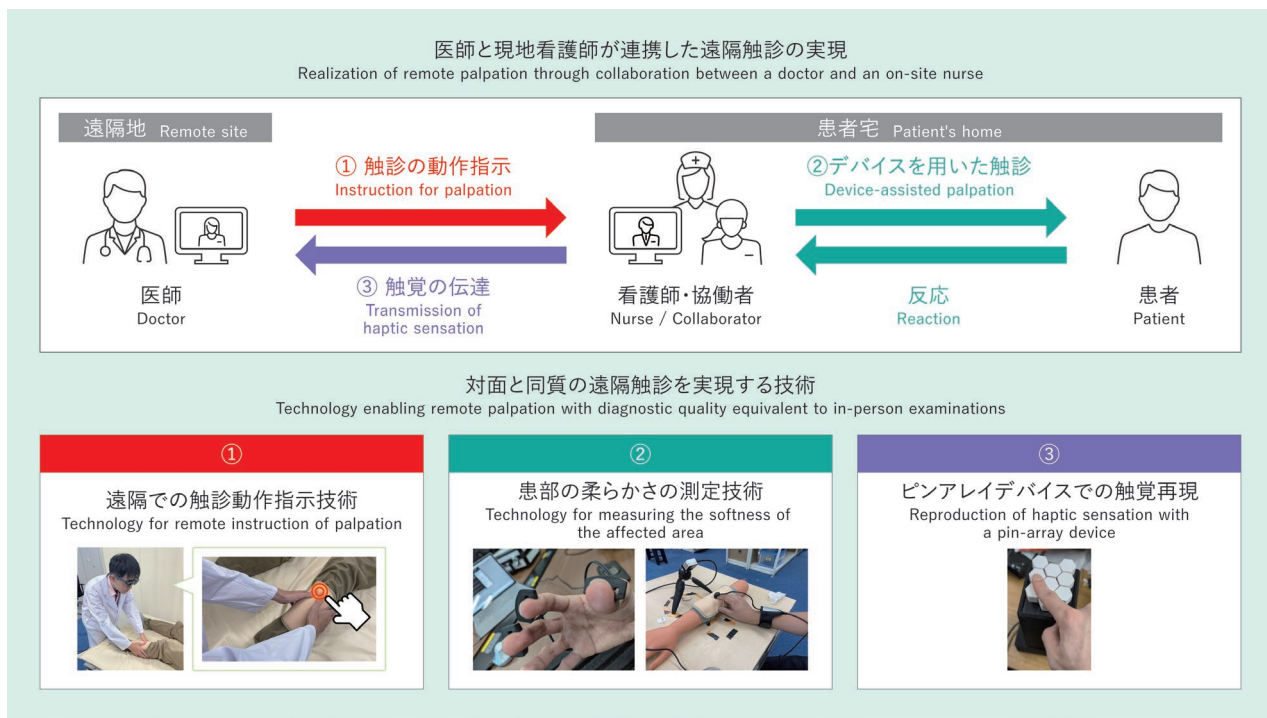


遠隔医師が患者近くにいる現地看護師と連携し、対面と遜色のない触診を実現します 医師と現地看護師が連携した遠隔触診技術

背景 - 技術課題

遠隔診療には、映像・音声に加えて触覚情報の伝達が不可欠ですが、硬さなどの触覚を測定・再現する技術はまだ確立されていません。また、医師の意図を現地の看護師に正確に伝え、適切な触診動作を指示する技術も必要です。



研究目標 - 成果

対面前提である下肢浮腫などの触診を遠隔で実施可能とすることで、医師の不足による診療の不全を改善し、患者が日々の適切な医療サービスを受けやすい環境を実現します。

技術ポイント

01 要素技術

- 触覚測定・再現技術：看護師の手を介し患部の硬さ触覚の定量的な測定や物理的な再現により、医師が自身の手で患部を把握
- 動作指示技術：看護師が触診時に触る強さや位置を視覚情報で簡潔に提示

02 市中技術差異点

遠隔操作ロボットなどを用いることなく、経験が浅い人の手を介しても患部の触覚情報（硬さ）を定量的にセンシング・再現
従来の機器保全作業に比べて、感覚的な触診作業を非言語情報を活用し指示

利用シーン ヘルスケア

技術確立予定時期 FY27-29

R&Dフェーズ 研究

ビジネス化予定時期 FY27-29

【出展企業】
NTT株式会社 人間情報研究所

【問い合わせ先】
サイバネティックス研究プロジェクト

【共同出展社/社外連携先】
新潟大学（共同研究）、聖路加国際大学（共同研究）

【関連Link】
<https://journal.ntt.co.jp/article/34729>